

ふりかえり会議（中間）コーディネーター意見書

事業名：子どもの心を受け止めるネットワークみえファシリテート業務委託

コーディネーター氏名（所属）：中盛 汀（W.T.Aまちづくりセンター）

ふりかえり会議開催年月日：平成19年7月24日

1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）

協働事業としてのモデルとしてスタートしたこの事業ではあるが、他の部分でも疑問になっている横のつながりの中で、すっきりと解決し切れていない部分がすべてにおいて影響していると言える。その意味では対等性の部分に問題を残したまま、まもなく終了と言う大きな壁を迎えることには心配もある。今一度、しっかりと同じ土俵で話し合いを行い、この事業の全体について、三重県として、NPOとしての役割やかかわりを持つことの意味の見直しが必要。

2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）

事務局となり、NPO側の役割は十分果たされていると感じる。が、事業自体にもかなりの仕事量があり、多団体への加入やネットワークへの呼びかけなどの部分にはまだ手が回りきらない現状もあり、NPOとしても行政側としても、それぞれに出来るネットワーク拡充への取り組みをすることも重要である。情報公開は十分されている。

3. 事業実施体制について

（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）

同じ行政サイドでも、室によつての重さが違い、それが顕著に事業にも現れているように感じる。この問題については、しっかりと各主体としてのかかわりの見直しや、協働事業たるものの意味についての共通認識の場を持つことが大事だと感じる。

また、県としても他の協働事業間で同じように部署としてのかかわりの弱さや認識の差などもあり、県としてのあり方が問われている。

今後、協働事業を進めていく中でも同じような問題が残ったままでは進歩がないので、県職員の研修や、県としての制度の中に協働における事業の進め方を落とし込むのか、全体としての見直しが必要であり、現時点ではまだ手を話せるものではないのではないか。

また、ひとつの事業が増えた、と言う認識を改め、NPOと協働することの意義、メリットを十分に活用する方向を見出してもらいたい。

4. 活動領域について

(資源配分と責任分担の視点から)

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B 3	C

公の活動領域

	/				私的 領域 (市場)
行政が担う公	A	B 1	B 2	B 3	
	\				
			県民が担う公		

公の活動領域の考え方

Aの領域：行政だけで担っている領域

Bの領域：県民と行政が共に担っている領域

B 1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域

B 2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域

B 3：県民が主となり行政が支援している領域

Cの領域：県民だけで担っている領域